

令和元年12月

普及活動報告

～「おいしい食の応援隊」活動支援～

(京丹波町：2日)



梅の生育特性や管理について講義

今年は梅の収量が少なかったことを受けて、人工授粉の方法や生育特性について説明しました。雨天のため前回までより参加が少なくなりましたが、積極的に剪定に取り組んでいました。

参加者からは、「日当たりを重視した剪定をすれば良いと分かった」「結果枝がもったいなくてなかなか切れなかった」等の感想が聞かれました。今後も普及センターは、栽培管理の面から「おいしい食の応援隊」活動を支援します。

場 所 京丹波町質志

出席者数 17名



剪定方法について説明

今年度、「おいしい食の応援隊」は質志では7回活動しており、各回20名程度が参加

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告

～京壬生菜の生産振興に向けて～ 日吉町の壬生菜生産者が市場を視察

(南丹市：3日)



せりの様子を見学



市場担当者と情報交換を行う生産者

京都市中央卸売市場でせりを見学後、研修会を行いました。普及センターから主要害虫について説明し、市場の担当者から壬生菜の入荷量や価格の動向、最近の市場動向や出荷規格などについて説明を受けた後、情報交換を行いました。

参加者からは、「以前に比べて出荷品目が多くなっている」「これからも安定出荷を目指していきたい」などの声が聞かれました。普及センターは、今後も栽培管理技術や害虫対策について支援を行っていきます。

場 所 京都市中央卸売市場
参加者数 12名

壬生菜部会員28名、今年度の販売金額3,000万円(見込)

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告



日吉町の壬生菜出荷量などを説明



播種作業に取り組む子どもたち

～給食で食べている壬生菜はどんなふう に育つの？～ 南丹市日吉町で小学生へ の食育活動を支援

(南丹市：4日)

子どもたちは、食いく先生のもと2人1組でシーダーテープを取り付けた播種機を使い、まっすぐ進むのに苦労しながらも熱心に播種しました。その後、他のハウスで壬生菜の生育状況を観察しました。

給食にも提供されている壬生菜の栽培に、子どもたちは興味津々の様子でした。「ハウス内の温度は何度まで上がりますか?」「どんな機械を使いますか?」など多くの質問があり、壬生菜の栽培だけでなく農家の仕事についても学ぶことができました。普及センターは引き続き食育活動を支援していきます。

場 所 南丹市日吉町
出席者数 15名

子どもたちは自分たちが播種した壬生菜の収穫体験を行います(3月頃の予定)

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告



消費者に紅茶の製造方法を説明



試飲会での出展の様子

～全国の地紅茶生産者・消費者が交流～ 京丹波町の生産者が「第18回全国地紅茶 サミットin愛知」に出展

(京丹波町：8・9日)

試飲会には多くの消費者が集まり、生産者から品種特性やこだわりを伝え、消費者の生の声に触れる場となりました。

また、生産者向けの講演が行われ、発酵度合いの違いによる味、香りの変化や地紅茶生産のメリットについて積極的な質疑応答がありました。

生産者からは、「発酵過程の香りや時間について新たな情報が得られた。来年の生産時に試したい」「地紅茶は海外産と比較するとまだまだおいしくない。発展していくようPRに力を入れたい」など意欲的な意見が聞かれました。普及センターは今後も生産者の取組みを支援していきます。

場 所 愛知県豊橋市

京丹波町大朴協同生産組合は茶園面積約5haを管理運営しています

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告

～特産小豆の生産振興を目指して～ 亀岡市西部地区赤小豆品評会が開催

(全域：9日)



10名で審査を実施



1位（亀岡市長賞）の小豆

今年の出産点数は16点で、相次ぐ台風被害や水害のあった昨年と比べると増えましたが、往年の約半数となっており、栽培者の減少という課題も浮かび上がりました。

しかし、出品物はレベルの高いものが多く、審査は難航しましたが、粒の大きさ、形の揃い、色つやを厳正に審査し、手収穫の部上位4点、機械収穫の部上位1点を特別賞としました。12月20日に当品評会の表彰式と栽培研修会が開催されました。普及センターは引き続き高品質な小豆生産を支援していきます。

場 所 JA京都亀岡西部支店
出席者数 10名

亀岡市の小豆栽培面積60ha

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告

新たに8名に「農山漁村伝承技能登録証」を交付 (9日)



登録証を交付



技能登録を受けられた皆さん

今回登録された8名の皆さんに南丹広域振興局局長から登録証を交付し、それぞれの方から技能を紹介いただき、交流を深めました。

交流会では「祭りや行事の時に振る舞う料理の塾を年間4回開催している。親子で参加する人もいる」「瑞穂大納言小豆の栽培には土作りが大切。手間をかけて大粒・俵型の小豆を生産している」など、技能にまつわるエピソードが披露されました。今後も普及センターは、農山漁村技能の伝承活動を支援します。

場 所 亀岡総合庁舎

出席者数 14名

今回の登録内容(一覧)(敬称略)

養蜂 川勝 敏正(亀岡市)

亀岡行事食づくり 須田みどり(亀岡市)

花壇苗栽培 川勝多嘉彦(南丹市)

繁殖和牛、採卵鶏 清水 宏(南丹市)

平飼い採卵鶏 湯浅 洋次(南丹市)

瑞穂大納言の高品質栽培技術

上田 正(京丹波町)

露地伏見とうがらしの高品質栽培

野間 健治(京丹波町)

露地伏見とうがらしの高品質栽培

野間 竹夫(京丹波町)

※管内の技能登録者数は平成9年以降合計162名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告

～カラフル野菜生産の推進に向けて～ 「ふらっと美山生産者の会」がタキイ農場等の視察研修会を実施

(南丹市：13日)



(株) タキイ種苗研究員の説明

参加者はタキイ種苗滋賀研究農場を訪れ、栽培技術や生育状況・収穫適期の判断のポイント等について説明を受けました。また、道の駅では新品目の取組み状況等について説明を受けました。

参加者からは「今後の取組みの参考になった」「意欲が増した」との声が聞かれました。普及センターは、夏と秋に開催されたカラフル野菜販売促進イベントでの消費者アンケートを分析し生産者の会へつないでいくなど、今後も引き続き取組みを支援していきます。



道の駅の直売農家から説明(左上・紫ハクサイ)

場 所 タキイ種苗 滋賀研究農場
道の駅「あいとうマーガレットステーション」

出席者数 14名

ふらっと美山生産者の会 会員数40名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告

～本格的な花菜の出荷が始まります！～
JA京都亀岡支部が花菜出荷会議を開催
(亀岡市：17日)



生育や花蕾^{からい}の伸長状況を確認する生産者

1月からの本格的な出荷を前に、JAから出荷規格等の留意点を説明され、普及センターは参加した生産者に対し、暖冬による生育前進化が予想されることから収穫遅れに注意するよう呼び掛けました。その後、ほ場を見学し、高畝による湿害防止や初期の病害虫防除の徹底等、収量増に向けた技術について現地を見ながら確認しました。

「早めの防除が重要だと理解した」「来年はもう少し播種を早めようと思う」など、多くの農家が自身の栽培の改善点をあげていました。普及センターは今後も高品質で安定した花菜の生産を支援します。

場 所 JA京都亀岡川東支店
出席者数 15名

令和元年度 JA京都京野菜部会亀岡支部花菜部会：生産者20名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告

～今年の賀茂なす出荷を終えて～ JA京都亀岡支部が反省会を開催

(亀岡市：17日)



高品質生産を呼びかける部会役員

6月から11月の賀茂なす出荷を終え、反省会が開催されました。各関係機関から収量や単価の推移、他産地の出荷状況、市場の評価や今後の価格の動向などの情勢報告を受けました。

今年度は他府県産との差別化のための優品シール表示が初めて導入され、検討の結果、来年も継続することになりました。普及センターは今後も高品質な賀茂なすの生産と長期安定出荷を支援していきます。



各関係機関から情勢等を報告

場 所 JA京都亀岡中部支店
出席者数 26名

JA京都亀岡賀茂なす部会員21名

出荷数量87 t (前年62 t)、金額3,410万円 (前年3,880万円)

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年 1 2 月

普及活動報告

～来年の良品生産に向けて～ JA京都美山支部伏見甘長とうがらし反省会が開催 (南丹市：17日)



来年に向けて意見交換

伏見とうがらしの出荷がほぼ終了し、反省会が開催されました。今年の生産販売状況の他、南丹地域特産協で視察した先進農家の栽培概要についても報告がありました。栽培のポイントや工夫されている点等を全員で確認し、意見交換を行いました。

部会では引き続き、生産量の確保と品質の向上に向けて取組みを進めていきます。普及センターは今後も良質な伏見とうがらしの生産を支援します。

場 所 JA京都美山支店
出席者数 13名

JAから生産販売状況を、普及センターから生育・病害虫発生状況を報告

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告



講師に自己紹介



熱心にメモを取る会員

はたけじよし
「畑女子in京都丹波」研修会・意見交換会を開催

(19日)

農作業と家事の両立で忙しい多くの会員の要望を受け、研修会では、作り置き可能な手作り調味料を使った家族みんなが満足できる簡単でおいしい料理の調理法の工夫を学びました。参加者は、「さっそく手作り調味料を作ってみたい」「良い話が聞けてよかった」と有意義で楽しい研修会となりました。

また、意見交換会では、南丹地域農村女性・加工研究会主催の「味自慢コンクール」(3月6日開催)に出品する具沢山の汁物のレシピについて話し合い、1月に試作を行うことになりました。

普及センターは出品物のレシピ作りなど、今後も会の活動を支援します。

場 所 園部総合庁舎
出席者数 10名

「畑女子in京都丹波」：現在の会員11名

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告

直売所での人気を受けて果樹のせん定作業を支援

(19～25日)



ブドウのせん定方法等を説明



イチジクのせん定を実践する農家

ブドウ、イチジク、ナシ等、地域の直売所で人気の果物を栽培している農家からの要請を受け、せん定の基本的な考え方について実践しながら説明しました。特に夏の陽当たりを思い浮かべながら枝を立体的に配置することの重要性を伝えました。

農家からは、「これまで我流でやっていたが、考え方が分かって良かった」「こんなに枝を切らなければならないとは知らなかった」との感想があり、今後の栽培に生かしたいとのことでした。普及センターは、今後も良質な果樹の生産を支援していきます。

場 所 管内果樹栽培農家ほ場3カ所

直売所等での人気を受け、管内で果樹栽培に取り組む農家が増加しています

京都府南丹農業改良普及センター

令和元年12月

普及活動報告



生育状況を確認



今後の栽培管理について助言

～今後のほ場管理について助言～シュンギク栽培ほ場を巡回

(南丹市：23・24日)

南丹市園部町内のシュンギク栽培ほ場を巡回し、生産者と情報交換するとともに、生育や病害虫の発生状況等を確認し、管理のポイントや病害虫防除対策など、栽培上注意すべき点を伝えました。

生産者ごとに生育状況や病害虫の発生状況が異なるため、今後の温度・湿度管理や農薬の選択・使用方法に関する質問に対し、現場を観察しながらそれぞれの原因究明とできる限りの対応策をお伝えしました。普及センターは今後もJAとともにほ場を巡回し、助言・指導を行います。

場 所 南丹市園部町

南丹市園部町シュンギク生産者：約40名

京都府南丹農業改良普及センター